福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020 年 1 月 29 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1－13－38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号 機構 04 — 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	深沢 博行	利用者保護	H0601041
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	小規模認可保育所			
評価対象事業所名称	あい・あい保育園小村井園			
事業所連絡先	〒	131-0043		
	所在地	東京都墨田区立花5丁目24番11号 柳ビル1階		
	TEL	03-5631-3140		
事業所代表者氏名	奥本 知世			
契約日	2019 年 5 月 24 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019 年 7 月 8 日			
利用者調査結果報告日	2019 年 9 月 2 日			
自己評価の調査票配付日	2019 年 8 月 1 日			
自己評価結果報告日	2019 年 9 月 2 日			
訪問調査日	2019 年 9 月 13 日			
評価合議日	2019 年 12 月 22 日			
コメント(利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂く為、評価の全体像や具体例を用いた判りやすい資料を作成し、丁寧に説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によりわかりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

株式会社global bridge 2019 年 12 月 27 日

事業者代表者氏名 代表取締役 貞松 成 印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：小規模認可保育所〕　　平成31年度（2019年度）

《事業所名：あい・あい保育園小村井園》

1	**理念・方針　（関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1）家庭的な温かい雰囲気の中で、子どもたち自らが明るい未来を創っていく基礎となる「笑顔と元気」「生きる力と考える力」を養っていく 2）「相手を思いやる心」を育み、「周りの人の力になれる」判断基準を養う 3）「周りの人と関係を築く」とともに、「社会を良くしていこうとする」道徳性と思考の基準を養う 4）「健康な心身」を育み、「周りの人に応援される」努力ができる人間的魅力を養う 5）遊びや生活を通した様々な経験の積み重ねから得られる「学び」が「思考」へと向かうように促す
2	**期待する職員像　（関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	一人ひとりの子どもと保護者が今をよりよく生き、そして未来を見据えた適切な援助ができる専門性を持った人材
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	（1）の実現に向けて、専門性（知識、技術）と人間性（倫理観、向上心）を高めようと努力をし、行動ができること

〔利用者調査：小規模認可保育所〕

平成31年度（2019年度）

《事業所名：あい・あい保育園小村井園》

調査対象	調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。 [調査対象世帯数：19世帯(在園児11名)]
調査方法	園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数	19
利用者家族総数（世帯）	19
共通評価項目による調査対象者数	19
共通評価項目による調査の有効回答者数	11
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	57.9%

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」63.6%、「満足」36.4%、「大変満足」と「満足」を合わせて100.0%の回答率となっています。「どちらともいえない」「不満」「大変不満」無回答が0.0%でした。園のサービスに対する保護者の満足度がたいへん高いことが確認されました。個別設問では、問1「活動や教育等のプログラムは心身の発達に役立っているか」、問2「園活動への興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるか」、問8「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか」、問10「職員の接遇・態度は適切か」、問13「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」問15「保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか」について「はい」の回答率が100.0%で最も高く、問6「安全対策が十分取られていると思うか」では「はい」の回答率が55.0%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100.0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0.0%という結果でした。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100.0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0.0%という結果でした。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	8	2	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の73.0%を占め、「どちらともいえない」が18.0%、「いいえ」が9.0%、「無回答・非該当」が0.0%という結果でした。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91．0%を占め、「どちらともいえない」が9．0%、「いいえ」「無回答・非該当」が0．0%という結果でした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	8	0	0	3
この項目では、「はい」と答えた方が全体の73．0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」が0．0%、「無回答・非該当」が27．0%という結果でした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	6	5	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の55．0%を占め、「どちらともいえない」が45．0%、「いいえ」「無回答・非該当」が0．0%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91．0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0．0%という結果でした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100．0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0．0%という結果でした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91．0%を占め、「どちらともいえない」が9．0%、「いいえ」「無回答・非該当」が0．0%という結果でした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100．0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0．0%という結果でした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	1	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の82. 0%を占め、「どちらともいえない」が9. 0%、「いいえ」が0. 0%、「無回答・非該当」が9. 0%という結果でした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	2	0	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の64. 0%を占め、「どちらともいえない」が18. 0%、「いいえ」が0. 0%、「無回答・非該当」が18. 0%という結果でした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100. 0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0. 0%という結果でした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	0	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91. 0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」が0. 0%、「無回答・非該当」が9. 0%という結果でした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100. 0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」「無回答・非該当」が0. 0%という結果でした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	10	0	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91. 0%を占め、「どちらともいえない」「いいえ」が0. 0%、「無回答・非該当」が9. 0%という結果でした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	7	2	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の64. 0%を占め、「どちらともいえない」が18. 0%、「いいえ」が18. 0%、「無回答・非該当」が0. 0%という結果でした。				

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点（）
	評価	標準項目	
	○ あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
	○ あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	
	○ あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
	○ あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
	サブカテゴリー1の講評		

ホームページで園の考え方や概要を示すとともに、ブログで活動風景を伝えています

ホームページに、保育事業の理念を「子ども達にとっての、もうひとつの家でありたい。」と掲げています。併せて、「学びメソッド」「学習プログラム」「英語とのふれあい」「食育プログラム」「運動プログラム」等を保育の特色として紹介しています。各園のページには、「開設日・住所・電話番号・定員・開園時間・設備」等の基本情報と、園内の風景写真を掲載しています。併せて、ブログを通じて、子どもの活動風景や表情を毎日更新しながら伝えています。これらの情報は墨田区のホームページを経由して閲覧することも可能です。

入園案内をリニューアルしてより具体的に保育内容の特徴を伝えています

入園案内において、園長のあいさつをはじめ、保育理念・保育目標・保育方針とともに、保育の特色と保育内容、年間行事、施設機能などを紹介しています。「小人数制保育・就学前能動的学習プログラム・外部専門講師による英語教育・食育プログラム・IT技術の活用」等を具体的に紹介し、保育内容の特徴を具体的に伝えています。この入園案内は系列園で共通の内容となっていますが、最終ページに沿えている園概要は独自の情報となっています。また、その内容をコンパクトにまとめたリーフレットも作成し、来園者に配布しています。

見学希望は随時受け付けし、園内での活動風景を直に見てもらえるようにしています

見学者対応は主に園長が担当し、希望に応じて随時受け入れしています。都合が合えば、金曜日に英語のプログラムを併せて見てもらえるように提案しています。当園は小規模園であり、少人数制で一人ひとりにあった保育を実施していることを、園内での子どもの様子を見てもらいながら説明しています。また、必要に応じて見学時に子育て相談も実施しています。

サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	
○ あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	
○ あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	
○ あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	
○ あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	

サブカテゴリー2の講評

入園前の説明会や個別面談等で重要事項を説明し、書面により同意確認を得ています

入園前に個別面談を設け、入園案内、重要事項説明書、園のルールをまとめた「保育園をご利用いただくにあたって」を基に保育理念・保育目標・保育方針や重要事項について説明しています。重要事項説明書では、事業の目的、保育所の概要、非常災害時の対応、個人情報の取り扱い等について説明しています。説明した内容を一覧表にして、一項目ごとの確認をした上で、同意書の提出を受けています。入園前の個別面談では、保育士・栄養士が入園前までの子どもの生育状況と保護者の意向を把握しています。

職員は子どもと家庭の状況を理解し、安心して園生活を始められるよう配慮しています

把握した子どもと家庭の状況について、児童票に記録するとともにケース会議等で園内共有を図っています。その上で、保護者と相談しながら、慣らし保育期間を10日間程度設けて、子どもと保護者が徐々に園生活に慣れることができるようにしています。はじめは登園に時間がかかるため、クラスの登園時間をずらすスケジュールを実施しています。また、子どもが園生活になじめるように、希望に応じて慣れ親しんだ持ち物や母乳を預かったり、持ち物に個別のマークを貼って自分の持ち物を分かりやすく示すなど、ストレスの軽減に向けて配慮しています。

退園する子どもをクラスで送り出すとともに、退園後にも必要な支援を継続しています

転園や退園、卒園をする子どもがいる場合は、お別れ会を行ったり、思い出の品をプレゼントしたりするなどし、気持ちよく送り出すようにしています。仮に継続した見守りを要する場合は、退園後にも相談等に応じるようにするとともに、行政等の関係機関と連携しながら対応しています。

	サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している　　評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	
○ あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	
○ あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している　　評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	
○ あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	
○ あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	
○ あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	
○ あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
○ あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
○ あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	

サブカテゴリー3の講評

子どもに関する情報は法人共通様式に記録し、定期的に見直しをしています

保護者や子どものニーズは入園前の個別面談や入園後の個人面談、保育参観、保護者会、送迎時の会話等で把握し、重要と思われる内容は児童票に記録しています。また、入園後の子どもの心身や生活の状況について、法人共通様式の保育日誌に記録し、2歳児まで個別の記録欄を設けています。併せて、あい・あい保育園のマスコットである「VEVO」がデザインされた連絡ノートを用いて保護者と情報を共有しています。それらの記録を、0・1歳児は毎月、2歳児からは四半期毎に、発達記録に集約しています。

全体的な計画に基づき、クラス毎に年間指導計画・月案・週案指導計画を作成しています

法人で作成した全体的な計画を全職員で確認し、園固有のニーズを反映させています。また、クラス毎に年間指導計画・月案・週案指導計画を作成し、指導や活動の内容を具体的に示しています。併せて、0・1・2歳児は個別指導計画を作成しています。その内容や成果について、保護者へは懇談会・保護者会で報告するとともに、個別の様子は面談や「AIAIレポート(成長記録および保育の経過記録)」を通じて伝えています。

申し送りノートや各種会議の場面を通じ、子どもに関する日々の情報を引き継いでいます

日々の保育の中で子ども一人ひとりの情報を共有する仕組みについて、指導計画や個人の記録は職員会議で報告しています。計画等は事務所に保管し、職員がいつでも閲覧できるようにしています。また、昼礼ノートを活用して引き継ぐとともに、朝礼・職員会議・カンファレンス・理念ミーティングで支援の方法を確認しています。この会議は、1度に全員参加できないため、同じ内容を2回にわたって開催し、全員に伝わるように工夫しています。 会議録や回覧は捺印により閲覧状況を確認するとともに、園長から必要事項を伝達しています。

	サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している　　評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	
○ あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している　　評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	
○ あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	
○ あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	

サブカテゴリー5の講評

子どもの情報や羞恥心に配慮しながら、事務および保育環境を整えています

法人の個人情報保護規程があり、個人情報を適切に使用し、かつ保護していく方法を文書化しています。利用者に対しては、重要事項説明書の中で個人情報の取り扱いについて明示しており、入園時に説明して同意書に署名押印を得て、園と利用者の双方で保管しています。排せつの環境にも配慮し、おむつ替えの場所を定めるとともに、発達に合わせてトイレを使用しています。

保育理念を基に、子どもや家庭に寄り添い、個々に配慮しています

全職員が保育理念を基に、個々の子どもを尊重して保育にあたっています。その上で、子どもの名前を呼び捨てにしない、家庭や身体的な事等についてネガティブな表現はしない等の対応に努めています。入園時面談や送迎時の会話、連絡帳、個人面談等で子どもと保護者の価値観、生活習慣を把握し、園方針や考え方と照らし合わせ、個々に配慮しています。

園内研修やチェックリストの活用、カンファレンス等により、適切な支援に努めています

人権擁護や虐待防止をテーマに、内部研修の開催や外部研修への職員派遣を行っています。また、虐待や育児困難について職員の気づきを促すために、チェックリストの活用とカンファレンスでの話し合いを行っています。さらに、子どもを保護する必要が生じた際は、法人や所属自治体のマニュアルに従いつつ、本社や子ども家庭支援センターと連携して対応する仕組みを整えています。

	サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	
○ あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	
○ あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	
○ あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	

サブカテゴリー6の講評

共通マニュアル・ガイドラインとして、多様なテーマについてまとめています

マニュアルは法人本部と園長らによって作成しています。共通マニュアル・ガイドラインとして、「安全管理・衛生管理・食品衛生・健康管理・アレルギー・危機対応・虐待対応」等のリスクマネジメントや、「年齢別保育（発達表）・障害児・入園前面談対応・保護者対応」等の個別支援やコミュニケーションに係るものなど、多様なテーマについてまとめています。マニュアルは事務室やサーバー内でいつでも確認できるようにしています。

マニュアルは施設長会や職員会議、内部監査を通じて見直しています

法人共通マニュアルは毎月の施設長会において問題提起され、必要に応じて更新しています。その際、アンケート結果やクラス懇談会、運営委員会、個人面談等で把握した保護者の意向を反映させるようにしています。園内においては、職員会議でマニュアルの周知と気づきの集約を行うとともに、半年に1度マネージャーによる内部監査で、客観的な視点から改善を図っています。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点（）
	評価	標準項目	
	○ あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	○ あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	○ あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	○ あり	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	○ あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	－	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	非該当
	評価項目1の講評		
	子どもの成長の様子を把握し、発達に応じた支援が出来るようにしています 一人ひとりの発達の過程や生活環境について、連絡帳や送迎時の会話で日々の状況を把握するとともに、保育日誌や児童票（発達記録）に記録しています。また、0・1・2歳児は個別指導計画を作成しています。 生活や遊びのコーナーを設置し、子どもが主体的に生活できるようにしています 園内はワンフロアー・ワンルームの設計ですが、仕切りを設けて年齢毎の活動スペースを確保しています。また、子どもが没頭して遊べる環境を作りたいと考え、コーナー保育を行い、子どもが玩具や絵本を自由に取り出せるように配置しています。 小規模園の良さを活かし、年齢の違う子どもが一緒に過ごす機会を設けています 小規模園であり、時間帯や保育内容に応じて異年齢合同の保育を行っています。一方、外国の文化に触れる機会として、全クラスを対象に専門講師による英語指導を行っています。歌や絵本、リトミックなどの遊びを通して、自然と英語に親しめるようにしています。		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
○ あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
○ あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
○ あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	

評価項目2の講評

家庭と連携し、子どもの日々の心身の状態や発達の段階を的確に把握しています

朝の受け入れは玄関で行い、保護者に検温をしてもらっています。担任または当番職員が前日からの様子を聞き、子どもの顔色や表情を観察しています。併せて、連絡帳の記載内容から家庭での様子や連絡事項を確認し、職員が共有するべき内容は朝礼時に共有し、日誌や申し送りノートに記載しています。降園時には、担任または担当職員が申し送りノートを確認し、連絡帳を返すとともに口頭で丁寧に子どもの様子を伝えています。

子どもの発達や家庭の価値観に合わせながら、生活習慣が身につくよう指導しています

生活リズムについて、低年齢児ほど丁寧に連絡帳に記録しています。また、個別面談などを通じて各家庭の子育ての方針を確認し、自立に向けた支援のタイミングについて家庭と歩調を合わせるようにしています。指導の目安として、トイレの使用は子どもの歩行が安定し、興味を持つようになってから、子どもの成長に合わせて取り入れています。

年齢に応じて午睡時間や寝具を変更し、適度に休息が取れるようにしています

デイリープログラムにおいて、年齢や個別のペースに応じて12時～13時30分までに入眠し、15時までに起床しています。寝具は、0・1歳児クラスがコットベッドを使用し、2歳児クラスからはマットを使用しています。早く起きた子どもがいた場合は、パーテーションで囲ったスペースを確保し、静かな遊びをして過ごせるようにしています。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
○ あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
○ あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
○ あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
○ あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
○ あり	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	

評価項目3の講評

保育室内にコーナーを設け、子どもが主体的に活動できる環境を整えています

保育環境について、子どもたち一人ひとりの興味・関心・意欲・発達段階などに合わせた保育の実践を目指しています。また、保育室にコーナーの充実を図り、玩具や絵本を自由に取り出して遊べる環境を構成し、子どもの自主性や主体性を尊重しています。制作物の掲示板も設けています。デイリープログラムでは、午前中に「自由遊び」の時間が設けられていますが、0・1・2歳対象の園であるため、設定保育の時間帯は少なくなっています。

独自に開発した学習プログラムを採用し、子どもが能動的に学ぶことを支援しています

特徴的な教育内容として、「2歳児を対象にした"創造的な思考力の基礎"を培う学びプログラム」を採用し、テキストや教材を通して「空間把握能力・思考力・数量」に対する感覚を伸ばし、「見えない学力」を伸ばそうとしています。また、全年齢を対象に、専門講師による英語レッスンを週1回設け、歌・絵本・カード・リトミックなどの遊びを通じて英語に親しんでいます。

園内のレイアウトを工夫して、体操や水遊びの環境を整えています

本園はビルの1室に入居しており、園庭を有していません。縦長のワンルーム設計の部屋を家具やパーテーションで空間を仕切って、年齢毎の生活空間を作っています。また、夏場は水遊びを、それ以外の季節には散歩に出かけて、子どもの活動範囲を広げています。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
○ あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
○ あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	

評価項目4の講評

日常の保育に楽しみを取り入れながら季節や文化に触れられるようにしています

主な行事として「入園おめでとう会・保育参観・縁日・運動会・ハロウィン・クリスマス会・お正月遊び・節分豆まき・お別れ会」等の季節行事と、お誕生日会を行っています。低年齢児の子どもが中心となるため、行事のために日常を過ごすことなく、日常の保育に楽しみを取り入れながら季節や文化に触れられるようにしています。縁日や運動会は近隣の集会所などを借りて行っていますが、親子で一緒に遊べる機会としています。

行事予定の配布や開催後のアンケートにより、保護者の理解を得られるようにしています

年間行事予定表を年度当初に配布し、特に保護者が参加する行事について日程を調整しやすいよう配慮しています。併せて、具体的な内容について行事のお知らせを配布するとともに、園だよりやブログ等で子どもの楽しんでいる様子を伝えています。保育参観や運動会・クリスマス会など保護者参加の行事は実施後にアンケートを行い、次の開催に向けた参考資料としています。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
○ あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

「もう一つの家」をコンセプトに、子どもが安心して快適に過ごせる環境を整えています

「笑顔と元気が溢れるもう一つの家」をコンセプトに、園内はブラウン系統の色や木調の素材、間接照明を用いたデザインとしています。保育室内では、壁面装飾を控え、視覚的にも心身を落ち着けることができるよう配慮しています。また、空調設備や加湿器等により、季節に応じた室温・湿度になるよう調整しています。さらに、全ての保育室に床暖房を完備しています。

ゆったりと好きな遊びが楽しめるよう一人ひとりに寄り添った関わりを心がけています

子どもが長時間を園で過ごすことに配慮し、心身共にゆったりと過ごせるようにしています。そのため、職員との信頼関係を構築することを大切にし、職員の連携を密にして担当クラスに拘らず子どもの事を理解するように努めています。日々の保育においては、担任から夕方の担当保育士に当日の子どもの様子を引き継ぎ、個別の状況に即した対応を心がけています。なお、現状においては延長保育の利用者が少なく、個別に丁寧な対応を尽くせています。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
○ あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
○ あり	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	
○ あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	

評価項目6の講評

調理師が子どもの喫食状況を確認し、おいしい食事の提供に努めています

給食・おやつは、管理栄養士が作成した献立をもとに全て園内で調理しています。薄味、和風献立を中心に、旬の素材を使った見た目にも食べてもおいしい食事の提供を心がけています。給食はサイクル献立で提供しています。調理師は子どもの喫食状況を確認し、調理の仕方を工夫・改善しています。利用者には、毎月末に次月の献立表を配布しています。なお、当日の給食はブログで写真付きで掲載しています。

食物アレルギーに対応した調理および提供の方法を確認し、誤食予防に努めています

初めて食べる食材については、献立表で食材を確認しながら家庭で2回以上試してもらい、園での提供を行うようにしています。アレルギー児への対応について、除去を基本としつつも、魚肉ソーセージやツナ・エッグレスマヨネーズ等を使用して、代替食を提供するよう努めています。また、誤食を防止するために、アレルギーチェック表を活用しています。併せて、提供時には色の違うテーブルおよび専用のトレーと食器を用いるとともに、アレルゲンを札で表示しながら保育と調理の職員が共に確認しています。

食材の栽培やクッキングを取り入れ、子どもの食に対する関心を高めています

お誕生日会では、調理師による手作りケーキの提供など、子どもの楽しみとなる工夫をしています。また、食育活動として、野菜の皮むきなど給食材の下ごしらえを手伝ったり、フルーツポンチづくりを体験したりと、年齢に応じたクッキングを計画しています。また、もやしの栽培と収穫、芋ほり、野菜スタンプ等様々な活動を取り入れています。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
○ あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
○ あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	

評価項目7の講評

保健計画に沿った指導を通じ、子どもの健康や安全に対する意識を育んでいます

年間保健計画を作成し、計画に沿って保健指導を実施しています。日頃から手洗い等が基本的な生活習慣となるよう指導しています。また、避難訓練や内科健診を経験し、自分の体に関心を持つ機会としています。加えて、エアトランポリンやボール、滑り台などの室内遊具が充実しており、これを使った室内での体を動かす遊びを行い、健康な体の育ちと柔軟な体づくりに取り組み、体幹を鍛えて怪我の防止にも繋げています。

職員の見守りにより、子どもの健康状態を把握しています

子どもの健康を管理する仕組みとして、登園時に子どもを受け入れる職員が視診に努めるとともに、健康状態を確認しています。また、嘱託医による内科健診等を定期的に行うとともに、季節の流行性疾患の地域情報や注意事項等の情報提供を受ける等、連携をとっています。SIDSについては0歳5分毎、1・2歳10分毎に様子を確認しチェック表に記載しています。

園内の衛生管理に努めるとともに、家庭と連携して感染症の予防に取り組んでいます

感染症対策として、職員が園内の衛生を保つとともに感染症対策を学び、嘔吐などによる汚染対策の手順を確認しています。また、利用者には園だよりに感染症対策等を記載し、季節に応じた健康管理の方法を伝えています。併せて、入園時に感染症への対応（登園許可の基準など）について説明するとともに、流行している疾患の周知や予防対策等のポスター掲示をして情報を提供し、家庭と連携して感染症の予防に努めています。園内で感染症が発生した場合は、病名・症状等を掲示して、注意喚起しています。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点()

評価	標準項目	
○ あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
○ あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
○ あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
○ あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
○ あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	

評価項目8の講評

情報の共有と保育の可視化を進め、保護者の信頼を得られるよう努めています

保護者の信頼を得られるよう、日頃から連絡ノートや送迎時のコミュニケーションを通じた情報共有を行っています。併せて、個人面談を実施しています。保育の可視化を図り、ブログを毎日更新し、その日の保育の様子や給食のメニューを掲載しています。また、保育参観や保育参加を実施し、保育内容や子どもの様子、職員の関わり方を知ることが出来るようにしています。さらに、「AIAIレポート」を作成して、前期・後期を通した子どもの成長過程を保護者と共有しています。

アンケートを通じて保護者の意向を把握し、サービスの改善に繋げています

保護者のニーズに即した取り組みとして、園運営に対するアンケートを通じて、保護者の意向を反映した運営やサービス提供が実現されるように努めています。行事毎のアンケートも行っています。また、有名写真スタジオとの業務提携により、プロのカメラマンが行事や園生活の様子を撮影し、専用サイトで販売を行っています。

ICTを活用するなど、保護者の生活様式に応じた情報提供の仕組みを整えています

ICTの活用により、登降園の手続きを簡略化するとともに、園だよりをデータ配信(希望者には印刷して提供)しています。また、同システムにおいて、大規模災害等が発生した際には、園のブログを活用し、さらに一斉メール配信による情報提供が行われる仕組みとしています。また、運営法人が子育て支援サイトを運営しており、子育てに役立つ情報を発信する環境を整えるとともに、一般的な子育て世代の関心事を捉えています。

9 評価項目9
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
○ あり	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	

評価項目9の講評

ハロウィン行事やボランティアの受け入れを行って交流の幅を広げています

子どもが地域とふれあう機会として、色々な公園を探索して遊んだり、電車や消防車を見に行ったりしています。また、小中高生のボランティアを受け入れ、少し年上のお兄さんお姉さんと関わる機会としています。さらに、ハロウィンの行事では、仮装をして交番・スーパー・接骨院を回り、園で用意したお菓子を渡してもらっています。

Ⅲ 利用者保護に関する項目

	利用者保護に関する項目	標準項目実施状況

1 評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	
○ あり	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	

2 評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、認識を共有し、組織的に防止対策を徹底している	
○ あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	

3 評価項目3
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（）

評価	標準項目	
○ あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
○ あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
● なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	
○ あり	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
○ あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	

利用者保護の講評（※利用者保護の内容から3つ（必 頁）記載してください）

利用者からの苦情等は本部と共有して組織的に対応する仕組みがあります

利用者への苦情対応に関しては、苦情受付窓口の設置、解決責任者と第三者委員の配置、苦情対応規程の制定、苦情対応マニュアルなど体制を整備をしています。玄関に苦情解決制度を掲示し、重要事項説明書などにも苦情解決制度を明記して周知しています。苦情などを把握した場合、本部に報告して内容を共有し組織的に対応する仕組みがあります。虐待防止への取り組みとして、チェックシートや、職員同士で自らの言動の振り返りをして確認しています。虐待報道を共有して現状把握に努めています。虐待の疑いがある場合、経過観察や関係機関と連携します。

定員割れによる経営リスクには、自社開発の教育プログラムを活用して対応しています

園はマニュアルに沿ったリスク対策を策定して職員と保護者に周知しています。保育園の増加により、定員割れによる経営リスクは優先度が高いです。対策として自社開発の教育プログラムを活用しています。このプログラムは利用者の約9割が教育内容を評価しています。災害対策では毎月避難訓練を行っています。訓練には送迎の保護者に訓練の日時を伝え、避難場所を当日ブログで伝えて引き渡し訓練を行っています。感染症対策は園長が園だよりを作成して流行状況を周知しています。

事故や怪我が発生した場合、報告書を作成して原因分析と再発防止策を検討しています

事故や軽度の怪我が発生した場合には「事故報告書」、事故や怪我に至らない場合には「ヒヤリハット報告書」を作成し、回覧して情報の共有を図っています。事故や怪我が発生した都度、原因を分析して再発防止策を検討しています。不審者対策には、オートロック付の扉、インターホンや防犯カメラの設置などによって不審者対策を講じています。経営層はリスクマネジメントの研修を受講して、研修内容を職員に伝えています。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	
タイトル①	地域に対して園をアピールし、利用者の増加を目指しています	
内容①	開園から6年目を迎えた本園において、近隣に認可保育所が新設されたこと等が影響し、初めての定員割れを経験しました。経営的な視点において、利用(希望)者の確保が急務であり、地域に対するアピールが重要であると認識しています。具体的には、地域交流や保育所体験の実施などを実施し、本園を知ってもらうことを目指しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	
タイトル②	職員の能力の向上を図り、園児に合わせた適切な保育がなされるよう努めています	
内容②	特別な配慮を要する子どもを複数名預かっており、適切な保育を行うためにも職員はより高い専門性を身につけなければなりません。そのため、利用者のニーズに即したテーマにより園内研修を開催するとともに、園外研修にも職員を派遣し、職員の能力とサービスの質の向上を目指しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

〔全体の評価講評：小規模認可保育所〕

平成31年度（2019年度）

《事業所名：あい・あい保育園小村井園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育の質の向上に熱心に取り組んだ成果として、利用者の満足度がたいへん高くなっています
	内容	本園は他の系列園とは異なる部分もあり、園独自の業務手順書が豊富に確認されました。小規模認可保育所という位置づけである本園は、園の規模も他の系列園とは異なります。そのような中で具体的に生じる検討課題に対して主体的に対応してきた成果であると思われます。また、熱心に保育の質の向上に取り組み、その成果として、利用者調査において6つの個別設問で「はい」の回答率が100%になるとともに、全体の満足度でも「たいへん満足」が63．6%、「満足」が36．4%の回答率を得ました。
2	タイトル	要支援の子どもを受け入れている現在の状況について、小規模園であればこそ取り組める利点を表しているように思われます
	内容	特別な配慮を要する子どもを複数名預かっており、適切な保育を行うためにも職員はより高い専門性を身につけなければなりません。そのため、園のニーズに即したテーマにより園内研修を開催するとともに、園外研修にも職員を派遣し、職員の能力とサービスの質の向上を目指しています。近隣に保育所が増えて定員割れを起こすような状況もありますが、本園に寄せられたニーズに応じる姿勢は、小規模園であればこそ取り組める利点を表しているように思われます。
3	タイトル	地域との交流に熱心に取り組み、子どもがボランティアや近隣商店の方とふれあう機会を得られています
	内容	子どもが地域とふれあう機会として、色々な公園を探索して遊んだり、電車や消防車を見に行ったりしています。また、小中高生のボランティア(職員の子どもや親戚)を受け入れ、少し年上のお兄さんお姉さんと関わる機会としています。さらに、ハロウィンの行事では、仮装をして交番・スーパー・接骨院を回り、園で用意したお菓子を渡してもらっています。地域との交流を図る等、地域と交流を図る行事を取り入れています。小規模園ながらこのように地域との関わりを目指し実績を上げている点が高く評価されます。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	外部からの侵入に対する防止策の具体化とさらなる周知に努めることが求められています
	内容	不審者対策には、オートロック付の扉、インターホンや防犯カメラの設置などによって不審者対策を講じています。経営層はリスクマネジメントの研修を受講して、研修内容を職員に伝えています。ただし、今回の評価に伴う利用者調査の結果において、「安全対策が十分取られていると思うか」の問いに対して、「はい」が55%、「どちらともいえない」が45%となっています。「いいえ」の回答は0%でしたが、漠然とした不安を感じている様子が窺えました。
2	タイトル	園内だけでは補いきれない活動環境をいかに確保するべきか、検討を進めることが期待されます
	内容	本園は小規模認可保育所であり、0・1・2歳児のみを預かっている小さな園です。ビルの一室を使い、年齢に応じた生活スペースを設けるようにしていますが、動線やコーナーを設定するような余裕はありません。そのような中、建物の内と外という空間と時間の組み合わせに視点を広げることが重要ですが、リスクマネジメント(夏季であれば「暑さ対策」など)を重視した結果、夏季は室内で過ごす期間が多くありました。園内だけでは補いきれない活動環境をいかに確保するべきか、検討を進めることが期待されます。
3	タイトル	広報素材と全体的な計画において、本園独自の特徴をより分かりやすくアピールすることが期待されます
	内容	あい・あい保育園の公式ホームページや園のリーフレットおよび入園案内などがサービス内容を紹介する広報材料となっています。ただし、本園は系列園の中でも例外的な位置づけの園になるため、預かりの対象になる子どもの教育内容や園内環境について、実際の様子をイメージできるものとなっていません。全体的な計画も、様式こそ対象年齢を0・1・2歳児のみに限定したものとなっていますが、本園独自の特徴について、より丁寧に反映していくことが可能な状況です。